

今治南高 歴史胸に未来へ



創立100年記念で演劇

矢内原さん(出身)監修 生徒演技等身大で

今治南高校出身で振付家・演出家・劇作家の矢内原美邦さん(54)が脚本を監修した演劇が6日、今治市常盤町7丁目の同校で披露された。別子銅山の製錬所があった四阪島(同市宮窪町)の煙害賠償を受け、前身の学校が開校したことを踏まえた内容で、生徒が過去に思いをはせ今を生き、未来を切り開こうとする意志を等身大の演技で表現した。

同校の前身は越智中学校で、当時の今治市と越智郡35町村が組合を設立し、1926年4月に開校した。スタッフを含む16人で披露された演劇は、煙害で苦しむ人々に思



①過去を知り、未来を切り開こうとする意志を込めた演技を披露する生徒②演じた生徒に感謝を伝える矢内原さん(左)

いを巡らせ、広島と長崎への原爆投下や、戦争が絶えない現在の国際情勢にも触れた。せりふには「二度と繰り返さない」と誓うためにも教育が必要」「未来に何ができるかを考えよう」といった言葉がちりばめられた。

3年の松木絢斗さん(17)は「煙害からどう立ち直ったのか、練習を重ねるうちに人ごととは思えなくなった」と振り返った。

矢内原さんは「卒業後、皆さんは自分だけの道を歩む。煙の中から花を咲かせる力を信じて進んでください」とエールを送った。

演劇は同校創立100周年記念行事の一環で、生徒や卒業生ら約600人が鑑賞した。

(西尾寛昭)